城下町入口の賑わい

柳町・荒町は江戸時代から信夫橋と深く関わって賑わってきま した。延宝八年(1680年)には、信夫橋付近の城下町入口で、農 民が持ち込む品々を町人が勝手に買ってはいけない、と禁じてい ます。つまりわざわざ禁じるほど、農民と町民が自由な取引をし ていたということ。明治35年の福島民報には、信夫橋を渡る一日 の人数はざっと 1500人。その8、9割の購買力は柳町と荒町に 吸収されたとあります。「何れも油気のある商店が櫛比して居る」、 つまり櫛の歯のように隙間なくずらりと並んでいると評されたよ うに、活気に充ち溢れた町だったんですね。



②宅宝院の石碑 ~甚兵衛火事

福島には今も語り継がれる大火事 が、明治 14年にありました。その名 も甚兵衛火事。当時、福島は藁ぶきの 屋根が多かったので燃えやすく、町の 80%が火災で焼失しました。宅宝院 には、火事の凄まじさを物語る石碑が あります。火に焼かれ変色し、ふたつ に割れたものが修復してあります。



★当時の中村呉服店と引札

3 柳稲荷神社

江戸初期、荒川が大洪水となっ た時、上流より一個の箱が柳の老 木の根元に流れ着きました。箱は 稲荷大明神の祠。人々は、水から 救ったのはこの稲荷大明神と信じ、 町の守護神として祀るようになり ました。神殿は甚兵衛火事で焼失 しましたが、昭和8年に再建され ました。



6寺町通り 多くの寺院が並ぶ寺町通りは、福島城の西側にあり、それぞれ の寺院は万が一の戦いの際、砦の役割をしたとも言われています。 江戸時代から続く老舗の和菓子屋で、 ほんのり素朴な甘じょっぱさが特徴の 江戸時代中期になり、平和な世の中になるとその空堀も埋め立 元祖みそばんは、福島人に昔から愛 ●中山染工場 てられ、福島城下を流れる水路として利用されました。 昔の帳簿なども保存されています。 たまのや SKホール 五月町 ● 平和合作社 美ふじゅ 10月の福島稲荷神社例大祭に参加 する荒町の山車が収納されています。 フォトハウスヨシイ® ちらの山車は 100 年程の歴史が あり、前面の龍の彫り物が自慢です。 ■ 荒町会館 ● 奥田茶舗 ● ワタリヤ釣具店 割烹うなぎ山晴● 綜合印刷● ●花ふじ 市の有形文化財の両界曼荼羅があ ります。また戦後に上野の寛永寺 宍戸商店● ■ 大文字屋本店 から移された第15代将軍、徳川 荒町バス停 明治初期創業の納豆製造会社。 慶喜の曾祖父、徳川慶昌の供養塔 福島市の納豆消費量は、全国 などもあります。 ● 日産プリンス福島販売 トップクラス 長澤薬店● 荒町 宍戸時計店● ●中村呉服店(中合の前身) 鶴田屋 清明町 福島県パン協同組合・ 福島で最も古い道のひとつ。 幕末から明治にかけて奥州街道随一の 市内西部の米俵は、この道 昔ながらの趣のあるす枡屋 豪商といわれた「光白屋」がありまし を通って御倉町の米蔵へ運 建物で、農家向けの た。店の間口が 25mもあり、「葬儀用 雑貨を販売していました。 荒町 ばれていったといいます。 具以外のもので扱わないものはない」 福島の古道 というほど繁盛しました。 ■ 光白屋跡 八島屋紙店 ● 福島民友新聞社 寺町通りなどの 柳町 福島城下で使われていた町用水は、 マンホールの蓋 吾妻山を源流とする天戸川から引 福島市のマンホール蓋のデザインは かれていました。朝早く水を汲み → 常光寺 絵柄が凝ったものが多数あります。 水瓶に蓄え、洗い物はその後に行 江戸時代には福島藩主板倉家の 特にこのエリアは種類が豊富なので、 うというルールがあったようです。 足下にも注目です! 菩提寺となるなど中緒あるお寺。 明治も年には暗内に福息仮旦庁 高喜商店● が置かれ、模擬福島県会が行わ れました。 福島城下の水路跡 卍 寶林寺 宅宝院の石碑(2 開創は鎌倉中期。伊達家や板倉家 とも結びつきの深い格式のある 明治ごろに作られた趣のある 寺で、熊野堂は福島市で2番目 赤レンガの建物。かつてこの に古い木造建築です。 (文)清明小 地にあった醬油蔵を引き継い でいます。 三和紙店 赤レンガの壁 一 常徳寺 召和も年に帝国競馬協会が設置 したもので、仲間町の馬頭観音 に同じものがあります。 馬の水飲み場 開花は5月~6月、 オレンジ色の斑紋 柳稲荷神社 がある薄黄色の花 ユリノキ を咲かせます。 江戸口と枡形 0信夫橋

★福島城下江戸口の図

❷福島河岸

至県庁

されているソウルフード。店内には

新房提灯店●

● 永井電機商会

ライオンズマンション・

旧米沢藩米蔵

御倉町

FTV カルチャーセンター

●江戸口と枡形

カーブの名残があります。

ここにはかつて江戸口と称された枡形

(町の入口を固める広場) がありました。

奥州街道がつらぬく町の南側入口で、常

荒町

杉妻町

福島市出身の古関裕而のデビュー曲

百周年記念歌碑

「福島行進曲」が刻まれています。

☑ 福島河岸

作詞は幼なじみの野村俊夫です。

▶ 杉妻会館

隈水淹没者供養の碑

川の流れを利用した舟運で、荷 物の積み下ろしをする場所を「河 岸」と呼びます。ここは阿武隈川 舟運の出発点、福島河岸。福島で とれたお米は河岸から舟に積み込 まれ、河口に運ばれ、何度かの積 み替えを経たのち、遠く江戸へと 運ばれていきました。



再現された福島河岸

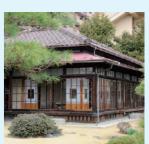
の御倉邸・おぐら茶屋

明治32年、東北では初めてのこと。 その日銀福島支店の支店長役宅と して昭和2年に建築されました。 木造平屋建て、寄棟、瓦葺きの建 物で、和洋折衷の間もある戦前の お屋敷らしい佇まいです。今では 福島市が買い取り管理しています。

阿武隈川を見下ろす庭園の一画 には休憩のできる茶屋や旧米沢藩 米蔵(復元)もあります。

開園 10 時~ 18 時 例 火曜日・年末年始 入場無料

おぐら茶





O信夫橋

この信夫橋は洪水のたびに流され、4回架け替えられています。 最初は2枚の大きな板を渡しただけのガンタラ橋からはじまり、 明治には木の橋、そして石橋に。その後、トラス橋となり、昭和 7年に架けられたのが、今の信夫橋です。「暴れ川」とも呼ばれた 荒川に橋を架け続けた福島人の根気強さを物語っています。





★3代目信夫橋



福島に日銀出張所ができたのは、

夜灯や夜間は閉める木戸もあり、関所的 な役割がありました。この枡形を過ぎる と道は城下の守りのために視界を遮る力 ギ形に折れています。改修後もゆるい